

如来寺の仏

匠 瑤 探 訪

186

今年、平安時代の初めに天台宗を開いた伝教大師最澄の1200年大遠忌に当たります。

千葉県宗教法人名簿登録の市内75寺のうち、八日市場地区の東栄寺と今回紹介する長谷・如来寺（共興地区）など9カ寺が天台宗寺院です。

如来寺の創建は1319年、または1323年の鎌倉時代のこととされています。

江戸時代には末寺30カ寺を有する西蓮寺（現在の茨城県行方市所在）の下総国の末寺3カ寺に如来寺も含まれていました。このことが創建に結び付

くのでは、と考えられますが詳しいことは分かりません。

同寺には、寺の名と関連するとみられる仏像がまつられています。一体は、善光寺式阿弥陀如来三尊像（市指定文化財）

です。善光寺式三尊像は鎌倉時代以降、日本各地で盛んに制作、信仰されたとき

れます。

如来寺の像は銅鑄造で、背中に刻まれた文字から「修蓮という念仏行者」が依頼、造立したと考えられます。

もう一体は現在の本堂（もとは客殿）にまつられる阿弥陀三尊像です。中央の阿弥陀如来像は厨子の中にまつられ、扉の部分の向かって右側に観音菩薩、左側に勢至菩薩が取り付けられる形でまつられています。あまり目にするのではない内仏の形式の像です。制作年代は江戸時代初期とみられますが、正確なことは分かりません。

このほか境内には不動明王をまつる不動堂やかつては焰魔堂もあり、また「下総四十九薬師」の四十番札所だったともいいます。

江戸時代に長谷、吉崎両村などに14の門徒寺を有した古寺の雰囲気如来寺にはあります。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

閩秘書課広報広聴班

☎73・0080



長谷の如来寺